

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
文化・教養	専門課程	総合デザイン学科(旧:ビジュアルデザイン学科) グラフィックWebフォト専攻(旧:グラフィックデザイン専攻)		○																						
学科の目的	ベーシックデザインから始まり、基礎デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																									
認定年月日	平成26年 3月 31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2年	昼間	1700時間	200時間	0時間	1648時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
440人の内数	35人	2人	7人	5人	12人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格 学費の完納																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和1年度卒業生) 博報堂プロダクツデザインスタジオ、アリカデザイン、北海道新聞HotMedia他 デザイン・広告業界 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 9 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 : 86 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 67 % ■その他 (令和1年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	11	11												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ビジネス能力検定	③	11	11																							
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成31年4月1日時点において、在学者24名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者23名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 学修意欲低下、進路変更、病気療養、経済的な理由他 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 4%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/visual/graphic/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

- (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科(旧ビジュアルデザイン学科)教育内容

- ① ベーシックデザイン、基礎デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
- ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
- ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院 事務局長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30
- 第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00
- 第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30
- 第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30
- 第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50.
- 第7回 平成28年12月16日 11:45～12:05
- 第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30
- 第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00
- 第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00
- 第11回 平成31年 3月22日 10:00～11:00
- 第12回 令和元年 11月13日 17:30～18:00
- 第13回 令和2年 8月6日 17:30～18:00
- 第14回 令和2年 11月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

総合デザイン学科(旧ビジュアルデザイン学科)では、PC操作に対し業界レベルに対応が難しい新卒社会人が見られる意見を受け、その現状を踏まえ、カリキュラムの中で、通常PC操作に加え、3DCG制作、ペンタブを活用したイラストレーション制作を導入し、PCに対する興味を高めた。また、インターンシップや就職活動において、他人とのコミュニケーションスキルが低い学生が多いことに対し、面接練習、社会人としてのマナー教育を姉妹校講師の協力を受けて、仕事をする上でコミュニケーション能力が必要だという意識を高くもつように指導した。就職活動におけるポートフォリオの未熟さを指摘された件については、具体的伝達方法としてのグラフィックデザインレベルを高めると共に、制作した本人がプレゼンテーションの重要性を意識し、希望する企業に対し、有効かつ柔軟な就職活動ができるよう授業内外を問わず、その制作を進めるよう指導した。またポートフォリオに収録する作品についても、各授業内で就職先希望動向を確認した上で、応用課題としての実務に近い課題テーマを設定し、より現実味のあるデザイン教育を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
2年専攻グラフィックデザインⅢ	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	株式会社DAVIS 田代 全克
1年専攻グラフィックデザインⅢ	写真・イラストを使った実習授業を行い、より実践的な広告制作のノウハウからブランディングなどディレクションについて学ぶ	アートディレクター 石上 光太郎
web	Illustrator・Photoshopを用いたwebサイトのデザイン制作から、デザインにおける視覚伝達の知識とスキルを身につける。	アートディレクター きたむら 千鶴

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

札幌ADCコンペティション&アワード2019 公開審査会に参加(R1.9月)
北海道広告企業協会主催 クリエイティブ研究会(R1.9月)
北海道広告企業協会主催 HAAAクリエイティブ研究会(R1.9月)
札幌コピーライターズクラブ 勉強会(R1.9月)

②指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回) 2019.7.23、12.13

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

デザインを活用した商品開発セミナー オンライン(R2.10)
DesignCafeと・ト・to(R2.10)

②指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4) 学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3学生に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか
----------	--------------------------------------

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

就職活動のレベルを高める必要があることから、レノボ・コミュニティ・フロンティアを中心とした14団体意識の向上はもつんのこと、各求人企業を招いて行う学内企業説明会においてポートフォリオ添削会を実施し、各企業、目指す職種、専門教育による学習成果、潜在的な能力による作品を整理し、就職へのアプローチへのプロット意識の自覚を促した。社会人として、クリエイターとして、コミュニケーション能力、社会との接点を意識させる必要があるという見解を元に、その接点を創出する機会として「アートフェア札幌(11月)」に学生をスタッフとして参加させることで、国内外で活躍するプロアーティストの作品、もしくは、アーティスト本人と交流することで本物のアートを取り巻く状況を理解し、さらに学生自身のクリエイティビティを刺激し、また、観客対応を通して、社会人としての基本的マナー、行動の実践を行うことで、洞察力・判断力が必要という仕事におけるコミュニケーション能力を高めることに成功している

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	株式会社カメラのカネミチ 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員 姉妹校卒業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法:ホームページ 公表時期:令和2年10月)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1前期	102	6			○	○		○		
○			基礎デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			カラープラン	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1前期	68	4			○	○			○	
○			基礎CG	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1前期	68	4			○	○			○	
	○		専攻グラフィックデザイン	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1前期	102	6			○	○			○	○
合計				8科目		476単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	64	4			○	○		○		
○			基礎デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	64	4			○	○			○	○
○			カラープラン	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1後期	32	2			○	○		○		
○			基礎CG	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○		○		
○			自由制作	各学生が研究テーマを持ち、講師の指導のもと実践を伴う制作を行い、知識と技術を習得する。		32	2			○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1後期	128	8			○			○	○	
	○		フォト	広告における写真の基礎知識習得から撮影実習を行い、実践的な知識と技術を習得する。	1後期	32	2			○			○	○	
	○		web	XDにおけるwebサイトのディレクションを学び、Illustrator・Photoshopを使ったデザイン制作のノウハウを身につける。	1後期	32	2			○			○	○	
合計					9科目	448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○		○		
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○				○
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		○
	○		グラフィックデザイン専攻	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	2前期	##	10			○	○		○	○	○
合計					7科目		476単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	○	
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	##	10			○	○		○	○	○
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	○	
合計					5科目	448単位時間					28単位				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																			
文化・教養	専門課程	総合デザイン学科(旧:ビジュアルデザイン学科) イラスト・キャラクター専攻(旧:イラストレーション・キャラクターデザイン専攻)		○																				
学科の目的	イラストレーション・キャラクターデザイン専攻では、実技トレーニング中心の学習で幅広いイラストレーションの技法の基礎から応用までを修得。ページックデザインから始まり、オリジナリティを尊重しつつも、業界が求めるスキルまで高める。またあらゆるフィールドでの活躍を視野に入れた教育内容(コミュニケーション、マナーなど)は社会人としての自覚も形成するものである。																							
認定年月日	平成26年3月31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																		
2年	昼間	1700時間	200時間	0時間	1648時間	0時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
440人の内数	67人	1人	7人	5人	12人																			
学期制度	■前期:4月1日~9月18日 ■後期:9月30日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																				
長期休み	■学年始:4月1日~4月2日 ■夏季:7月31日~8月25日 ■冬季:12月21日~1月14日 ■学年末:2月18日~3月31日		卒業・進級条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格、学費完納																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) リプロール、アイ・エヌ・ジー、オートクチュール、石栗写真館、クレイティブ・アスロ他 デザイン業界 ゲーム業界		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
ビジネス能力検定	③																							
■卒業生数		29	人	※種類の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 第59回学生美術全道展(北海道新聞社・全道美術協会主催)優秀賞 神谷麻友																				
■就職希望者数		21	人																					
■就職者数		21	人																					
■就職率		100	%																					
■卒業者に占める就職者の割合		72	%																					
■その他																								
(令和1年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)																								
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成31年4月1日時点において、在学者62名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者60名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学修意欲低下、進路変更、病気療養、経済的な理由他		■中退率 3%																					
■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																							
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/visual/illust-character/																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科(旧ビジュアルデザイン学科)教育内容

① ベーシックデザイン(ゲームVR専攻をのぞく)、デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成

② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目

④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院 事務局長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30
 第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00
 第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30
 第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00
 第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30
 第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50
 第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15
 第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30
 第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00
 第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00
 第11回 平成31年3月22日 10:00～11:00
 第12回 令和1年11月13日 17:00～17:30
 第13回 令和2年8月6日 17:30～18:00
 第14回 令和2年11月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

総合デザイン学科(旧ビジュアルデザイン学科)では、新型コロナの影響を受けて業界を取り巻く状況に変化が見受けられ、印刷物・イベントなどのイレギュラーものはストップで、その分、Webの需要が大きく伸びているという意見が出た。すでにイラスト・キャラクター専攻でも、webの授業は受けられるようになっており、就職活動においてもバナー広告などのweb関連の指導も行っているが、さらに、社会の需要に対応できる人材に育成する。Webの求人増加が見込めるため授業においてはより一層指導を強化し、ディレクション出来る力をつけさせたい。業界では、Webでの新たな取り組みが生まれている。コロナ禍でどう工夫するか、問題解決能力を身につけることが必要のため、デザインワークを広い観点で見て、考えることができるように意識して指導に取り組む。また、そのためには、部活動のような少数精鋭で問題解決をはかる授業があるとよいという意見が出たが、授業内で少数チームによる課題制作も、今後は取組みたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
 ・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	フリーアーティスト 曾田 千夏
イラストレーション・キャラクターデザイン I	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティ
イラストレーション・キャラクターデザイン II	プロフェッショナルを目指せることにより、今後力をつけるゲーム系、アニメ系、デザイン系、アート系進路への絵柄強化を図る。より応用的な材料に触れ、自分の表現の幅を広げる。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校内外で必要な研修機会を設けるものとする。
 年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道イラストレーターズクラブアルファMY WORK31 イラストレーション展(R1.10)
 博報堂プロダクツデザインスタジオ 企業説明会に参加 企業が求める人材、技術を学ぶ(R1.7)
 株式会社ジーアングル 企業説明会に参加 企業が求める人材、業界について学ぶ(R1.10)

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回) 2019.7.23、12.13

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

AdobeMAX online参加(2020/10/21, 22)

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 就職活動のレベルを引き上げる必要があることから、ビジュアルコミュニケーションを中心とした伝達意識の向上はもちろんのこと、各求人企業を招いて行う学内企業説明会においてポートフォリオ添削会を実行し、各企業、目指す職種、専門教育による学習成果、潜在的な能力による作品を整理し、就職へのアプローチへのプロット意識の自覚を促した。社会人として、クリエイターとして、コミュニケーション能力、社会との接点を意識させる必要があるという見解を元に、その接点を創出する機会として「アートフェア札幌(11月)」に学生をスタッフとして参加させることで、国内外で活躍するプロアーティストの作品、もしくは、アーティスト本人と交流することで本物のアートを取り巻く状況を理解し、さらに学生自身のクリエイティビティを刺激し、また、観客対応を通して、社会人としての基本的マナー、行動の実践を行うことで、洞察力・判断力が必要という仕事におけるコミュニケーション能力を高めることに成功している

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	株式会社カメラのカネミチ 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	正木守委員 姉妹校卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:令和2年10月)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供方法:本校公式ホームページ

<https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/8f1b0d77f4fcb54215775fc8ee61a948.pdf>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1前期	##	6				○	○	○		
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4				○	○		○	○
○			カラープランニング	実習を通して色彩の基本原理と調合、各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1前期	68	4				○	○	○		
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。デザインソフト Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の基本的操作を学び、CG作品(デザイン・イラストレーション)の制作に必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1前期	68	4				○	○	○		
	○		専攻イラストレーションⅠ	基礎技術の習得を中心とし、目的意識の向上を図る。強調と省略・情報収集・探求心の育成。	1前期	68	4				○		○	○	○
	○		専攻イラストレーションⅡ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。取材からポ制作までを一貫して学び、イラストレーションを応用したニーズや伝達方法を学ぶ。	1前期	34	2				○		○	○	○
合計					8科目	476単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	64	4			○	○		○		
○			基礎デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	32	2			○	○			○	
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1後期	32	2			○	○			○	
○			基礎CG	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○			○	
○			自由制作	各学生が研究テーマを持ち、講師の指導のもと実践を伴う制作を行い、知識と技術を習得する。	1後期	32	2			○	○			○	
	○		専攻イラストレーションⅠ	基礎技術の習得を中心とし、目的意識の向上を図る。強調と省略・情報収集・探求心の育成。	1後期	64	4			○				○	
	○		専攻イラストレーションⅡ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。取材からルポ制作までを一貫して学び、イラストレーションを応用したニーズや伝達方法を学ぶ。	1後期	32	2			○				○	
	○		デジタルイラスト	デジタルイラストレーションを制作するために必要なPCソフトスキルを学ぶ。また、デジタルイラストのニーズや各ニーズに合わせた伝達方法を学ぶ。	1後期	32	2			○	○			○	
	○		基礎デッサンⅡ	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。構図やプロポーション、材質の表現、物の見方・影の捉え方を習得し、デッサンの基礎的能力を高める。	1後期	32	2			○	○			○	
合計				10科目		448	単位時間(28		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	世の中にあるモノには、その源流となるものがある。デザイン的な視点を養い、制作者側の視点に立つことで見える意図や方法を知る。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○	○			
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○	○	○		
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用と、Web制作スキルの習得。	2前期	68	4			○	○	○	○		
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		
	○		イラストレーション・キャラクターデザイン II	クロッキーを習慣化することにより、今後分科するゲーム系、アニメ系、デザイン系、アート系進路への絵柄強化を図る。より応用的な材料に触れ、自分の表現の幅を広げる。	2前期	##	10			○	○	○	○	○	
合計				7科目	476単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	○	
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	##	10			○	○		○	○	
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	○	○
合計				5科目		448単位時間(28単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	専門課程	総合デザイン学科(旧:インテリア学科) インテリア専攻		○																			
学科の目的	インテリア分野におけるプロとして必要な、基礎と実務知識を習得することを目的とし、旬の知識や情報を常に授業に取り入れ習得する。インテリア計画の基本やインテリアエレメント(家具、照明器具、カーテンなど)の商品知識を学び、機能と空間の関わり方など課題を通して実践し、現場で即戦力となりうる人材を育成する。																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1700時間	332時間	0時間	1516時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
440人の内数	27人	0人	3人	4人	7人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格、学費の完納																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) 横浜工務店、アトリエテンマ、マルワホーム企画、札幌 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 13 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92 % ■その他 (令和1年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>16</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>建築CAD</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ビジネス検定</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	リビングスタイリスト	③	16	14	建築CAD	③	17	7	ビジネス検定	③	17	15
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
リビングスタイリスト	③	16	14																				
建築CAD	③	17	7																				
ビジネス検定	③	17	15																				
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成31年4月1日時点において、在学者31名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者30名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学修意欲低下、進路変更、病氣療養、経済的な理由他 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 3%																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/interior/coordinate/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科(旧インテリア学科) インテリア専攻 教育内容

①ベーシックデザイン、デッサン、ドローイング、基礎CADは必修科目で、基礎力を育成

②専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③視覚伝達論やインテリア学で、幅広い教養科目

④就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院 事務局長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:20～14:50

第2回 平成26年2月7日 14:00～15:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 12:50～13:10

第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15

第8回 平成29年10月20日 10:30～11:00

第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00

第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00

第11回 平成31年3月22日 10:00～11:00

第12回 令和1年11月13日 17:00～17:30

第13回 令和2年 8月6日 18:00～18:30

第14回 令和2年 11月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

インテリア学科は、高いプレゼンテーション能力を求められる。よって学科・専攻を超えたカリキュラム編成が望ましいとの意見を受け、イラストレーターやフォトショップなどCG系授業をビジュアルデザイン学科の教員が実務を想定した授業を行っている。また、社会性の教育が必要との指摘を受け、ソーシャルコミュニケーション授業の担当講師を姉妹校である、札幌観光プライダル・製菓専門学校 エアライン学科の講師に変更し、学生の接客・マナー向上に努めた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

専攻授業を設け、専攻学科の学生全員が受講。現役で活躍する経験豊富なコーディネーター・アドバイザーを講師陣とし、旬の知識や情報を常に授業取り入れ活かし、授業の中で、実務での様子や経験したことを直接学ぶ。年4回の講師会で、カリキュラム・授業内容、進め方を確認し、問題があれば改善する。また、年2回の作品審査会を行い、学生への評価・意見を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアデザインⅠ・Ⅱ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	米川建築設計事務所 主宰 米川 雅喜
インテリアコーディネーターⅠ・Ⅱ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	(株)アトリエ樹 取締役 金山 美保子
モデリング	主にステレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用方法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	造形作家 央戸 輝彦

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校内外に必要な研修機会を設けるものとする。
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

A&A 株式会社 マーケティング本部 教育支援部 福原弘之様に今後のCAD授業のあり方や現場でのVRやBIMの使用状況や方法についてレクチャーを受ける。(4月)
DIKO電機ショールーム ライティングコア札幌、照明勉強会(9月)
LIXILショールーム札幌 住設セミナー及びショールーム見学(11月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回)
LIXILショールーム札幌 市場調査(9月) キッチン等の住宅設備、サッシなどの建具、タイルなど外構製品等の新製品チェックならびに最近の傾向を把握し、今後の学生への就職指導の参考とする。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

DIKO電機ショールーム ライティングコア札幌、照明勉強会
パナソニック札幌ショールーム 住設セミナー及びショールーム見学
LIXILショールーム札幌 住設セミナー及びショールーム見学
札幌ファニッシング ショールーム見学

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(年2回)□

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。」

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3陸路に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

ビジネスを行う上で必要な最低限のPCスキル・社会性を習得させる必要があるとの意見を踏まえ、イラストレーター・フォトショップなどデザインに関わるPCスキルだけではなく、エクセル、パワーポイントなどを授業に組み入れた。また学生の社会性が低いとの指摘を受け、ソーシャルコミュニケーション授業担当講師を姉妹校である、札幌観光ブライダル・製菓専門学校のアライン学科講師に変更し、学生の接客・マナーの向上に努めた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIデザイナー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	株式会社カメラのカネミチ 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員 姉妹校卒業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和2年10月)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリア専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア計画Ⅱ	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			リビングコミュニケーション	リビングスタイリストとして、インテリアをはじめとする住生活商品を買求める消費者に商品の魅力を説明出来、適切な提案を行うことができるスキルを学ぶ。	1前期	34	2	○			○			○	○
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的力、美的感性を鍛える。	1前期	34	2			○	○			○	○
○			視覚伝達論	ノンバーバルコミュニケーションの考え方を学ぶ。コミュニケーションのあり方や違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。さらに、課題作成を通して視覚伝達の原理や方法・技術について学ぶ。	1前期	34	2			○	○			○	
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。CADソフトを使用し、設計製図を行う。まずは、CADの操作を覚え、設計条件を読み取り、プランニングをまとめ図面化する力をつけ、CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力としての能力を身につける。	1前期	68	4			○	○			○	
○			ベーシックデザイン	デザイン、作品製作の基礎となる技術、知識を学ぶ。立体を平面で説明するための製図、及びアイソメトリック図法の技法を手書きを中心に学習する。また、デザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解し、図面は平面で表現するが頭の中は3次元（立体）で考える訓練をする。	1前期	68	4			○	○			○	
○			インテリアデザインⅠ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネートⅠ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	1前期	68	4			○	○			○	○
合計				10科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリア専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅱ	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	32	2	○			○	○			
○			カラースキム	各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○	○	
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的力、美的感性を鍛える。	1前期	32	2			○	○			○	○
○			視覚伝達論	ノンバーバルコミュニケーションの考え方を学ぶ。コミュニケーションのあり方や違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。さらに、課題作成を通して視覚伝達の原理や方法・技術について学んで行く	1前期	32	2			○	○			○	
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1前期	32	2			○	○			○	
○			ベーシックデザイン	デザイン、作品製作の基礎となる技術、知識を学ぶ。立体を平面で説明するための製図、及びアイソメトリック図法の技法を手書きを中心に学習する。また、デザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解し、図面は平面で表現するが頭の中は3次元（立体）で考える訓練をする。	1前期	32	2			○	○			○	
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。CADソフトを使用し、設計製図を行う。まずは、CADの操作を覚え、設計条件を読み取り、プランニングをまとめ図面化する力をつけ、CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力としての能力を身につける。	1前期	64	4			○	○			○	
○			インテリアデザインⅠ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	64	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネートⅠ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	1前期	64	4			○	○			○	○
合計				10科目				448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリ専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア計画Ⅲ	機能的な寸法や計画の方法など、機能と空間の関わり方など、インテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	2前期	34	2	○			○		○		
○			CADⅡ	3D-CADの基本的な操作技術・表現技法を学び、即戦力としての能力を身に付ける。	2前期	68	4			○	○		○		
○			プレゼンテーションテクニックⅡ	インテリア業界で必要とされている、イラストレーター・フォトショップの基礎から応用を学び、プレゼンテーションに役立てる。	2前期	68	4			○	○		○		
○			モデリング	主にスチレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			空間計画	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するための作画・表現技術を身につける。	2前期	68	4			○	○		○		
○			インテリアデザインⅡ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネーターⅡ	インテリアの各エレメントを適切に選択し、効果的にインテリアに生かすことと、マンションや戸建住宅のリフォームから使いやすさなどを提案していく。	2前期	68	4			○	○			○	○
合計					8科目	476単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリ専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業制作・企 画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	64	4			○	○	○	△	○	
○			卒業制作・制 作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	96	6			○	○	○	△	○	
○			卒業制作・演 習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	##	10			○	○	○	△	○	
○			卒業制作・作 品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	96	4			○	○	○	△	○	
○			卒業制作・ス キルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2 後 期	32	2			○	○	○	△		
合計				9科目	448単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
文化・教養	専門課程	総合デザイン学科(旧:ファッション学科) ファッションメディア専攻(旧:ファッション専攻)	○																			
学科の目的	ブランド企画の方法、パターン、縫製、販促方法、販売までトータルで学び現場で即戦力となる人材を育成する。																					
認定年月日	平成26年 3月 31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	1700時間	300時間	0時間	1548時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
440人の内数	24人	2人	2人	6人	6人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月30日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月31日～8月25日 ■冬季:12月21日～1月14日 ■学年末:2月18日～3月31日		卒業・進級条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格、学費の完納																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) アーバンリサーチ、ユナイテッドアローズ、ツヅキ 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 : 11 人 ■就職希望者数 : 11 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和1年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションビジネス検定</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ファッションビジネス検定	③	11	7	ビジネス能力検定	③	15	10	色彩検定	③	15	9
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
ファッションビジネス検定	③	11	7																			
ビジネス能力検定	③	15	10																			
色彩検定	③	15	9																			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成31年4月1日時点において、在学者27名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者26名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学修意欲低下、進路変更、病気療養、経済的な理由他 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 4%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/fashion/business/																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科(旧ファッション学科)教育内容

- ① ベーシックデザイン、基礎デッサン、ファッション造形、基礎CGで、基礎力を育成
 - ②ファッションデザインⅡで最先端のデザイン技術の習得
 - ③ファッションビジネスⅡで現場で必要な技術を習得し即戦力となる人材の育成
 - ④視覚伝達論やファッションビジネスⅠで、幅広い教養科目
 - ⑤就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ
- 上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院 事務局長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 15:00～16:30
- 第2回 平成26年2月7日 15:00～16:00
- 第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30
- 第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30
- 第6回 平成28年5月19日 13:10～13:30
- 第7回 平成28年12月16日 12:15～12:35
- 第8回 平成29年10月20日 11:00～11:30
- 第9回 平成30年7月25日 9:30～10:30
- 第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00
- 第11回 平成31年3月22日 10:00～11:00
- 第12回 令和1年11月13日 17:00～17:30
- 第13回 令和2年 8月6日 17:00～17:30
- 第14回 令和2年 11月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

アパレルの業界動向等のご意見を頂戴し、カリキュラムに反映させるなどの改善を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
- ・年2回の作品審査会を行い、学生への評価を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ベーシックデザイン	デザイン作品制作の基礎となる技術、知識を学ぶ。ミシン、手縫いの基礎と平面作図によるシャツ、ブラウス、パンツ等の製図と縫製。	フリーデザイナー 安楽 恵子
基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デザインするために必要な描画力を習得し、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。	フリーデザイナー 安楽 恵子
ファッション造形	グッズの制作を基本としながらも、ファッション業界の現在や、即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな内容とする。	ファッションデザイナー 高橋 拓也
基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。イラストレーター、フォトショップの基本的な使い方から応用、Web制作。	アートディレクター 北村 千鶴

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校内外で必要な研修機会を設けるものとする。
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

ACFアートステージ(ファッションショー)参加(2019.10/12)
ファッションデザイナー中田龍三様 セミナー参加(2019.7/24)

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回) 2019.7.23、12.13

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

ACFアートステージ(ファッションショー)参加 (10月頃予定)
ファッションデザイナー中田龍三様セミナー参加(12月頃予定)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

ビジネスを行う上で必要な最低限のPCスキル・社会性を習得させる必要があるとの意見を踏まえ、イラストレーター・フォトショップなどデザインに関わるPCスキルだけではなく、エクセル、パワーポイントなどを授業に組み入れた。またソーシャルコミュニケーション授業担当講師を姉妹校である、札幌観光ブライダル・製菓専門学校のエアライン学科講師に変更し、学生の接客・マナーの向上に努めた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIデザイナー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 寛	株式会社カメラのカネミチ 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員 姉妹校卒業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和2年10月)

URL: https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	ノンバーバルコミュニケーションの考え方を学ぶ ファッションの近代史、様々なスタイルを研究しデザイン、スタイリングに活かす。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	ビジネス能力検定3級の取得を通じて社会人としてのマナーを身に付ける。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ファッションデザインI	デザインの基礎知識、色彩検定3級対策	1前期	34	2			○	○			○	
○			基礎デザイン	デザインするために必要な描画力を習得し、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。	1前期	34	2			○	○			○	○
○			ベーシックデザイン	デザイン作品制作の基礎となる技術、知識を学ぶ。ミシン、手縫いの基礎と平面作図によるシャツ、ブラウス、パンツ等の製図と縫製。	1前期	102	6			○	○			○	○
○			ファッションデザインII	3DCGを用いたファッションデザインの方法について学びバーチャル環境への移行を実現する。	1前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスI	ファッションビジネス能力検定3級の資格取得を目指すと共にファッション産業の仕組みや商品知識を身に付ける。	1前期	34	2	○			○		○		
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。イラストレーター、フォトショップの基本的な使い方から応用、Web制作。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			ファッションビジネスII	店舗運営に関わる知識、技術についてロールプレイングなどを通し実践的に学ぶ。	1前期	34	2			○	○		○		
○			ファッション造形	グッズの制作を基本としながらも、ファッション業界の現在や、即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな内容とする。	1前期	68	4			○	○			○	○
○															
○															
合計				10 科目		476 単位時間			(28 単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	ノンバーバルコミュニケーションの考え方を学ぶ ファッションの近代史、様々なスタイルを研究しデザイン、スタイリングに活かす。	1 前期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	ビジネス能力検定3級の取得を通じて社会人としてのマナーを身に付ける。	1 前期	32	2	○			○		○		
○			ファッションデザインⅠ	デザインの基礎知識、色彩検定3級対策	1 前期	32	2			○	○			○	
○			基礎デザイン	デザインするために必要な描画力を習得し、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。	1 前期	32	2			○	○			○	○
○			ベーシックデザイン	デザイン作品制作の基礎となる技術、知識を学ぶ。ミシン、手縫いの基礎と平面作図によるシャツ、ブラウス、パンツ等の製図と縫製。	1 前期	96	6			○	○			○	○
○			ファッションデザインⅡ	3DCGを用いたファッションデザインの方法について学びバーチャル環境への移行を実現する。	1 前期	32	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	ファッションビジネス能力検定3級の資格取得を目指すと共にファッション産業の仕組みや商品知識を身に付ける。	1 前期	32	2	○			○		○		
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。イラストレーター、フォトショップの基本的な使い方から応用、Web制作。	1 前期	64	4			○	○			○	○
○			ファッションビジネスⅡ	店舗運営に関わる知識、技術についてロールプレイングなどを通し実践的に学ぶ。	1 前期	32	2			○	○		○		
○			ファッション造形	グッズの制作を基本としながらも、ファッション業界の現在や、即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな内容とする。	1 前期	64	4			○	○			○	○
○															
○															
合計			10 科目		448単位時間(28 単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グローバルランゲージ	販売、バイイングに必要となる基礎的な英会話を学ぶ。	2前期	34	2	○			○			○	
○			就職対策	社会人になるための基礎知識を学ぶ。	2前期	34	2	○			○			○	
○			ファッション造形Ⅰ	ファッションショーの衣装政策を通してデザインに適したパターンメイキングと縫製について学ぶ。	2前期	102	6			○	○			○	○
○			ファッション知識	現場で必要となる計数の理解から予算計画、品ぞろえ計画、販促などマーチャндаイジングについて学ぶ。	2前期	34	2	○			○			○	
○			CG	1年次応用とWeb制作について学び、現在のファッション業界に適したファッション流通の方法を学ぶ。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			ファッション造形Ⅱ	グッズの制作を中心としながらも、ファッション業界の現在や即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな授業を行う。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			ファッションビジネスⅡ	店舗運営に関わる知識、技術について実践的に学ぶ。	2前期	68	4			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅢ	ファッションショーに向けた衣装制作・企画を通しファッションビジネスの一連の流れを理解する。	2前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	3DCGを用いたファッションデザインの方法について学び、バーチャル環境への移行を実現する。	2前期	34	2								
合計				7 科目										476 単位時間(28 単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	96	6			○	○		○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	128	8			○	○			○ ○	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	128	8			○	○			○ ○	
○			卒業制作・作品	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	64	4			○	○		○		
○			卒業制作・スキルアップ	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	32	2			○	○		○		
合計			5 科目			4 4 8 単位時間 (2 8 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	専門課程	総合デザイン学科(旧:ビジュアルデザイン学科) ゲームVR専攻		○																							
学科の目的	ベーシックデザイン、デッサン、カラープランニングなどで美術系素材コンテンツの要求・設計・作成の基礎を学び、ゲームエンジン(ユニティ)でのゲーム制作を繰り返しながら、ゲーム業界の各職種とユニティを活用できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	2年							昼間	1700時間	200時間	0時間	1648時間	0時間	0時間													
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
440人の内数		6人	0人	7人	5人	12人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級条件		進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格 学費の完納																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動		■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和1年度卒業生) ゲーム業界他		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導																										
		■卒業生数 0 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 : - % ■卒業者に占める就職者の割合 : - %			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
		■その他 新専攻のため、卒業生なし				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
中途退学の現状	■中途退学者 名 平成31年4月1日時点において、在学者-名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者-名(令和2年3月31日卒業生を含む)		中退率 %																								
	■中途退学の原因 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/visual/graphic/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科(旧ビジュアルデザイン学科)教育内容

- ① ベーシックデザイン(ゲームVR専攻をのぞく)、デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
 - ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
 - ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
 - ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ
- 上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院 事務局長	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和2年4月1日～令和3年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30
- 第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00
- 第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30
- 第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30
- 第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50.
- 第7回 平成28年12月16日 11:45～12:05
- 第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30
- 第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00
- 第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00
- 第11回 平成31年 3月22日 10:00～11:00
- 第12回 令和元年 11月13日 17:30～18:00
- 第13回 令和2年8月6日 17:30～18:00
- 第14回 令和2年11月 開催予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

総合デザイン学科(旧ビジュアルデザイン学科)では、PC操作に対し業界レベルに対応が難しい新卒社会人が見られる意見を受け、その現状を踏まえ、カリキュラムの中で、通常PC操作に加え、3DCG制作、ペンタブを活用したイラストレーション制作を導入し、PCに対する興味を高めた。また、インターンシップや就職活動において、他人とのコミュニケーションスキルが低い学生が多いことに対し、面接練習、社会人としてのマナー教育を姉妹校講師の協力を受けつつ、仕事をする上でコミュニケーション能力が必要だという意識を高くもつよう指導した。就職活動におけるポートフォリオの未熟さを指摘された件については、具体的伝達方法としてのグラフィックデザインレベルを高めると共に、制作した本人がプレゼンテーションの重要性を意識し、希望する企業に対し、有効かつ柔軟な就職活動ができるよう授業内外を問わず、その制作を進めるよう指導した。またポートフォリオに収録する作品についても、各授業内で就職先希望動向を確認した上で、応用課題としての実務に近い課題テーマを設定

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
- ・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ゲームエンジン基礎	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。アイテム制作における立体物の特性や構造を理解する。	株式会社Enterprise 宍戸 輝彦
3D Artist	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。人物を中心としたキャラクターの特性や構造を理解し、モデリングする力を身に着ける。	AMON WORKS 代表 宇田川 善将
ドローイング基礎	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるため	フリーアーティスト 曾田 千夏

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

unity研修(2020年3月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年2回) 2019.7.23、12.13

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

unityを使用した実技研修(2020.10月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4) 学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-2陸生に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

就職活動のレベルを引き上げる必要があることから、ビジュアルコミュニケーションを中心とした伝達意識の向上はもちろんのこと、各求人企業を招いて行う学内企業説明会においてポートフォリオ添削会を実施し、各企業、目指す職種、専門教育による学習成果、潜在的能力による作品を整理し、就職へのアプローチへのプロット意識の自覚を促した。社会人として、クリエイターとして、コミュニケーション能力、社会との接点を意識させる必要があるという見解を元に、その接点を創出する機会として「アートフェア札幌(11月)」に学生をスタッフとして参加させることで、国内外で活躍するプロアーティストの作品、もしくは、アーティスト本人と交流することで本物のアートを取り巻く状況を理解し、さらに学生自身のクリエイティビティを刺激し、また、観客対応を通して、社会人としての基本的マナー、行動の実践を行うことで、洞察力・判

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	株式会社カメラのカネミチ 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	2020年4月1日～2021年3月31日 1年更新	企業等委員 姉妹校卒業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和2年10月)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数

(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。デザインソフト Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の基本的操作を学び、CG作品(デザイン・イラストレーション)の制作に必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1前期	34	2			○	○			○	
	○		ゲームエンジン基礎	Unity認定校として、まずゲーム分析、遊びのカイヨフを理解した上でUnityを使用し、ゲームエンジンに関する主要な学習を進める。また、ゲーム制作に必要な要素を学び、今後の世界観育成に役立てるようにする。ならびにUnity認定の資格修得を目指す。	1前期	136	8			○	○			○	○
	○		ゲームエンジン応用	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。アイテム制作における立体物の特性や構造を理解する。	1前期	34	2			○	○			○	○
	○		3D Artist 基礎	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。人物を中心としたキャラクターの特性や構造を理解し、モデリングする力を身に着ける。	1前期	136	8			○	○			○	○
合計				7科目		476	単位時間(28		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 後期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 後期	34	2	○			○		○		
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1 後期	34	2			○	○			○	○
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。デザインソフト Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の基本的操作を学び、CG作品(デザイン・イラストレーション)の制作に必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1 後期	34	2			○	○			○	
	○		ゲームエンジン基礎	Unity認定校として、まずゲーム分析、遊びのカイヨワを理解した上でUnityを使用し、ゲームエンジンに関する主要な学習を進める。また、ゲーム制作に必要な要素を学び、今後の世界観育成に役立てるようにする。ならびにUnity認定の資格修得を目指す。	1 後期	68	4			○	○			○	○
	○		ゲームエンジン応用	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。アイテム制作における立体物の特性や構造を理解する。	1 後期	102	6			○	○			○	○
	○		3D Artist 基礎	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。人物を中心としたキャラクターの特性や構造を理解し、モデリングする力を身に着ける。	1 後期	136	8			○	○			○	○
	○		基礎デッサンⅡ	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学び、よりゲーム制作の為に必要な表現力につなげる。	1 後期	34	2			○	○			○	○
合計					8科目	448単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○			○	○
			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○			○	○
			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○			○	○
			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○			○	○
			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけでなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○			○	○
合計															
					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。